

# ひびきあい

## いちばん すきなものを みつける

校長 村岡 靖

さようなら

谷川俊太郎

ぼくもういかなきゃなんない	ぼくすききらいいわずになんでもたべる
すぐいかなきゃなんない	ほんもいまよりたくさんよむとおもう
どこへいくのかわからないけど	よるになったらほしをみる
さくらなみきのしたをとおって	ひるはいろんなひととはなしをする
おどおりをしんごうでわたって	そしてきつといちばんすきなものをみつける
いつもながめてるやまをめじるしに	みつけたらたいせつにしてしぬまでいきる
ひとりでいかなきゃなんない	だからとおくにいてもさびしくないよ
どうしてなのかしらないけれど	ぼくもういかなきゃなんない

(中略)

大好きな谷川俊太郎さんの詩です。子どもが成長し親離れして、未来に向かって世界への扉を開ける、そんな詩だと思えます。

私が特に好きなのは「きつといちばんすきなものをみつける みつけたらたいせつにしてしぬまでいきる」と言うところです。一生大切にできるような、すきなものを見つけられた人は幸せです。

この後、長い夏休みが待っています。子どもたちの心はうきうきしている事でしょう。たくさん本を読んだり、星を見たり、友だちと遊んだり、絵をかいたり、いつもとは違う場所に行ったり、普段できない体験をして、一生大切にできるようなすきなものが見つけれられるといいですね。

今年の3月に文科省の中教審で「次期教育振興基本計画について」が取りまとめられました。その中で「自己肯定感や自己実現」と「人とのつながりや利他性」の2つを教育を通じて向上させるとしています。自己肯定感や利他性はこの学校便りでも繰り返し書いてきたテーマであり、それこそが子どもが幸せになるキーワードだと私も考えています。

お店にたくさんの方が並んでいたとします。その時の自分の利益だけを考えて割り込みをするとします。それをみんながし始めたら大混乱です。大きなエネルギーロスです。また割り込みをすることによって人から信用されなくなってしまいます。どう行動することが自分にとって最善なのかを徹底的に考えたら、「自分だけ一番得になる」ことから遠ざかるのです。みんなにとって得なことが、自分にも一番得なのです。利他性が自分や周りの人の幸せにつながるのです。

大谷翔平選手が高校時代に書いた目標達成シートには、野球のスキルに関わる事が書いてあるのですが、「ごみ拾い」「思いやり」「あいさつ」「信頼される人間になる」などの利他性につながる項目もあります。見ている人を幸せにする大谷選手の秘密はそんなところにあるのかもしれないですね。